

作業用手袋や保冷剤などを製造販売する三重化学工業(三重県松阪市)は2017年、医療分野の新ブランド「メディアン」を立ち上げた。「保冷・保温」の得意技術を生かし、大学や大病院との産学連携で新たな市場を切り開く。

三重化学工業 冷却ジェルの水枕など製造

ミドル企業 きらり

冷凍庫で冷やすだけで繰り返し使え、熱くて寝苦しい夜や発熱した際に活躍する冷却ジェルの水枕。大手製薬会社などから市販されているが、複数社にOEM(相手先ブランドによる生産)供給しているのが三重化学工業だ。60年前に洗濯のりの製造を始め、水枕やカチカチに凍らない保冷剤を開発してきた。

ものづくりの器用さを発揮した医療機器が「くるっとクール」。山川大輔社長(40)によると、藤田保健衛生大学病院(愛知県豊明市)との産学連携で4年前に誕生した。

「長方形でなく、患者の首や脇にフィットする水枕が欲しい」。現場の看護師の声に応え、U形の水枕のような形を考案

得意の保冷技術 医療に



突き指や首、脇の患部を冷却するジェル商品を手にする山川社長(松阪市の本社)

し、適度な弾力性を備える青いジェルを詰めた。総重量は830g。たくさんさんの氷を作ったり、氷を詰め替えたりする作業の必要がなくなった。1400余の病床を持つ同大病院は重症患者の多い病棟で「くるっとクール」を使う。「太ももの付け根にも装着でき、冷却できる時間が長い」と真野恵子看護部長。小児用のサイズを望む声が出ていたという。山川社長は「医療ブランドの立ち上げは10年来の会社の夢だった」と話す。医療分野に参入したのは2006年。父親が

産学連携で第4の柱作り

《三重化学工業の会社概要》

▽本社	三重県松阪市
▽事業概要	作業用手袋、保冷剤などの製造販売
▽設立	1956年
▽従業員	約50人
▽売上高	17億4000万円
	(2017年10月期)

の保健室にも導入されている。「熱中症の応急処置や運動後のクールダウンにも向いている」と、山川社長は販路拡大の先頭に立つ。同じ青いジェルを使い、突き指ややけどした指を冷やす「アイシングフィットーG」も好評だ。

円高や資源安で業績を左右される化学業界。山川社長は「しなやかな強さ」を掲げる。ホームページやフェイスブックで会社の情報を発信。地元を流す。若い人材の雇用につなげたいという。

ミエロブ事業の本格的な海外展開の青写真を描く一方、医療分野では、松阪市の中小支援資金を活用し、近畿大学医学部との商品開発を急ピッチで進めている。当面の売り上げ目標は年間1億円。「ニッチな分野でトップを取ってきた強みを生かせば、チャンスはすぐあると思う」。山川社長は確かな手応えを感じている。

(津支局長 山本啓一)

1998年早稲田大学卒業、国民金融公庫(現日本政策金融公庫)入社。総合研究所主任研究員などを経

ぶつかります。経営者のままでは立ち行かなくな交代だけの話では済まることが明白でした。

下ろす手に近い抜き